

TOPICS

奈良に春を呼ぶイベント、「鹿せんべいとばし大会（第13回）」が開催される。

奈良に春を呼ぶ風物詩としてすっかり定着した感がある「鹿せんべいとばし大会」は今回で13回目。今年は「奈良2010年塾」の協力でパワーアップして開催され、競技のルールも変わった。その他、模擬店や演芸ライブなど多くのアトラクションも催され、開催当日の3月20日は若草山が人で溢れた。

■鹿せんべいとばし大会の概要と実行・運営

「鹿せんべいとばし大会」を主催するのが地元若草山山麓の土産物業者等で構成されている「若草山山びらき実行委員会（実行委員長：清水宗和氏）」である。

この大会は、奈良の町に映える若草山の良さを全国的に発信できるようなイベントを模索していた実行委員会が考え出したもの。毎年、若草山の春の山びらきにあわせて開催されており、今回で13回目を迎えた。若草山の中腹に設置したコートから鹿せんべいを投げて距離を競う。

今回は、奈良2010年塾（統括プロデューサー：熊澤正博氏）（※）が協力し、大会を全面的にサポートした。



実行委員会清水氏（左）と2010年塾熊澤氏

※平城遷都1300年記念事業に主体的に参画し、奈良の地域資源を活かした新時代の市民参加型文化・イベントを発案、企画運営する「文化ボランティア」を育成している。

■主なイベント内容

大会のコンテンツは昨年までと大きく様変わりした。基本的にとことん鹿にこだわった『鹿本位

制』でイベントを進行。鹿せんべいとばしの競技に加え、多くのアトラクションが催された。

なお、おもな内容は以下の通りである。

▷鹿せんべいとばし大会（個人戦）

- 予選ライン（20m）を越えると決勝進出
- 予選参加者1,000名のうち128名が決勝に進んだ。
- 優勝者の記録は35.67m

▷鹿せんべいとばし大会（団体戦）

- 1チーム3名で構成
- 3人のうち1人でも予選ライン（20m）を通過すれば決勝進出
- 予選参加100チームのうち36チームが決勝に進んだ。
- 決勝戦は3人の合計距離で競い、優勝チームの記録は103.98m



個人戦予選の様様

▷DEER Café

- 鹿にこだわったメニュー「鹿琲（コーヒー）」や「鹿コア（ココア）」「鹿き（柿）ケーキ」などを提供。

▷DEER プレイワールド

- ・鹿せんべい的あてゲーム、鹿の角輪投げゲーム、鹿せんおみくじを実施。

▷鹿寄せホルンコンサート

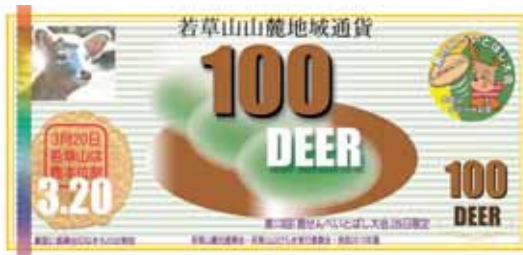
- ・奈良県王寺町周辺で活躍中の「アンサンブルほるんのわ」によるホルン演奏。

▷「劇団シカ」による寸劇

- ・スタッフはすべて2010年塾生（素人）。近鉄奈良駅、若草山等でパフォーマンスを披露。

▷地域通貨券「DEER 券」の発行

- ・当日、会場内でのゲーム利用や物品購入はすべて「DEER 券」という地域通貨券を使用。「DEER 券」は周辺店舗でも使用可能。



▷鹿への感謝状贈呈

- ・開会セレモニーの一つとして鹿へ「感謝状」を贈呈。直径 30cm もある超特大の鹿せんべいに感謝文を記入、書かれた感謝状を読み上げた後、鹿へ贈呈した。



開会式のセレモニーで鹿せんべいに書かれた感謝状

■おわりに

参加者は個人戦、団体戦あわせて1,300人。申し込みは個人戦、団体戦とも受付開始から1時間

で終了した。また、見学者も含め、当日若草山には2,000人以上の観光客が訪れ、会場および周辺の土産物店舗は観光客で溢れた。

参加者の住所をみると、奈良市内、奈良県内だけでなく兵庫県、大阪府、三重県など県外からの参加も少なくなかった。



予選を待つ大勢の人たち

来年も同時期に第14回の「鹿せんべいとばし大会」の開催が予定されている。観光地奈良の主要アイテムである若草山と鹿をマッチさせた「鹿せんべいとばし大会」。新しい観光イベントとして、来年はさらなる展開が期待できよう。

鹿せんべい

鹿せんべいは、米ぬかと小麦粉で作られており、通常のサイズは機械で焼いている。あくまでも鹿のおやつであるため、人間が食することは避けるべき。また、材料の配合割合は企業秘密であるという。

今回の鹿せんべいとばし大会決勝で使用された大きさ約20cmの特大大鹿せんべいは機械焼きではなく、一枚一枚手作りで焼かれている。したがって、大量生産ができず、大会に合わせて何日も前から準備が進められてきた。

決勝で使用した1,300枚のせんべいを製造したのは武田商店の武田豊氏（奈良市奈良阪町）。

なお、広島県の宮島にも多くの野生鹿が棲息しており、ここでも鹿せんべい（通常サイズ）が売られているが、奈良で製造されたものかどうか。